



当日参加
OK
(先着順)

あの日から10年

～防災教育と災害伝承を倉吉で考えませんか～

「防災教育チャレンジプラン」では、近年、災害が激甚化・頻発化する中、21世紀の災害に立ち向かうであろう、子供たちを中心とした家庭や地域の防災に関わる能力の向上を図ることにより社会全体の防災力を向上させることを目的として活動しています。本セッションでは「防災教育と災害伝承」をテーマに、災害の教訓を自分事の防災教育へとつなげる取り組みについて、実践事例や有識者との意見交換を通して皆様とともに考えます。

防災教育チャレンジプランとは？

防災教育チャレンジプランは、いつやってくるかわからない災害に備え、大切な命を守り、できる限り被害を減らし、万が一被害にあったときでも、すぐに立ち直れる力を一人一人が身につけられるよう、全国の地域、学校、企業や民間組織などの様々な担い手が防災教育を推進するためのプランです。

日時

10/18 SUN
12:30～
14:00

会場

エースパック未来中心 大ホール

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町212-5 (倉吉パークスクエア内)



パネルディスカッション

テーマ：

災害伝承をどう「自分事の教育」へ変換するか



話題提供・パネリスト

佐藤 翔輔

東北大学災害科学国際研究所
准教授

専門は災害伝承学、災害情報学。博士(情報学)(京都大学)。内閣府・国土交通省 NIPPON 防災資産選定委員会・委員長など。著書に『楽しい調べ学習シリーズ・災害伝承の大研究(PHP 研究所)』



話題提供・パネリスト

中村 秀司

鳥取県立岩美高等学校
教頭

鳥取県内で高等学校主幹教諭や県教育委員会事務局指導主事等を経て現職。ESD や学習科学を地理教育に援用し、サステナビリティ・コンピテンシーを形成する教育実践に取り組む。『実践的な防災教育の手引き(中学校・高等学校編)』実践事例等 作成協力者など。



コーディネーター

木村 玲欧

兵庫県立大学環境人間学部・
大学院環境人間学研究科 教授、
防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員長

専門は防災心理学、防災教育学。博士(情報学)(京都大学)。内閣官房：国土強靱化に資する民間の取組事例の調査業務に関する審査委員など。著書に『災害・防災の心理学－教訓を未来につなぐ防災教育の最前線』。



パネリスト

幾島 浩恵

看護師・防災士

小学校2年生から6年生まで鳥取県米子市に住む。神戸の病院で、阪神淡路大震災に遭い、当時の様子を語り部として伝えている。結婚後は和歌山県在住。「災害時を想定した車中避難訓練」「食と排泄」「要配慮者の防災」など実践中。



パネリスト

木下 史子

文部科学省 総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・
安全課 安全教育調査官

兵庫県姫路市出身。岡山県公立小学校教諭。2011年4月から岡山県教育庁で学校安全、学校文化、社会教育行政を担当。うち3年間、岡山県庁で県警察と協働で「子供の安全対策」を推進。2023年4月から現職。



パネリスト

船木 伸江

神戸学院大学
現代社会学部社会防災学科 教授

北アリゾナ大学教育心理学専攻修士修了。京都大学情報学研究科博士後期単位取得満期退学。内閣府「防災教育チャレンジプラン実行委員会」委員、総務省消防庁「防災まちづくり大賞」選定委員会・選定委員など。

主催 防災教育チャレンジプラン実行委員会 HP <https://bosaijapan.jp/challenge-plan/>

後援：消防庁 文部科学省 国土交通省 全国知事会 全国市長会 全国町村会 日本赤十字社 全国都道府県教育委員会連合会 日本 PTA 全国協議会

協力：公益財団法人日本法学会

協力団体：リスク対策.com 東京大学地震研究所地震火山観測研究推進協議会防災リテラシー部会 巨大災害研究会 (一社)ドローン減災協会 災害救援ボランティア推進委員会 (一社)防災教育普及協会 株式会社内田洋行 株式会社木下カンセー NTT 東日本株式会社 明治安田生命保険相互会社